

チャイエックス・グローバル、 日本における私設取引システム開業について発表

2010年7月7日

チャイエックス・グローバル・インク

チャイエックス・グローバル・インク（以下「CXG」）は、その日本法人であるチャイエックス・ジャパン株式会社（以下「CXJ」）が、日本におけるPTS（Proprietary Trading System：私設取引システム）業務に関し、必要な監督当局への登録及び認可取得を完了し、間もなく業務を開始すると発表した。

チャイエックス・アジア・パシフィックのCEOであるRon Gould（ロン・グールド）は、以下のようにコメントした。「今般、チャイエックスが日本の株式市場と証券会社、および投資家に貢献できる機会を得ることができ、うれしく思う。我々の高速・低コスト・高機能の取引システムは革新的なものであり、市場全体の流動性の厚みを増すことに貢献してきた。年初より稼働している東京証券取引所の次世代売買システム、アローヘッドと相俟って、日本株の投資家は、より高速・低コストで効率的な環境で取引できることから、新たな流動性が生まれることが期待できる。他国の市場では、それまで取引していなかった投資家がチャイエックスを利用することで市場全体の流動性が高まったケースも見られる。日本においても、同様に市場全体の流動性向上に貢献していきたい。」

CXJは、本邦に登録された証券会社のみをその参加者とし、代替市場としての業務に特化する。CXJで執行された取引は、PTSの売買に係る清算業務を開始する（株）日本証券クリアリング機構（以下「JSCC」）にて清算・決済される。

CXJの業務開始は今月下旬を予定している。まず、少数の銘柄で取引を開始した後、日経平均採用銘柄およびCXJの選定する銘柄を取り扱う。取扱銘柄は取引参加者のニーズに応じ、順次拡大していく予定。取引時間は午前8時から午後4時とする。参加証券会社への手数料にはいわゆるメイカー・テイカー方式を採用、板に指値注文を置き流動性を供給した「メイカー」と、その指値に対当させて流動性を利用した「テイカー」では手数料を異なるものとし、流動性に貢献する参加者にインセンティブを与えるものとする。

CXJの代表取締役であるJoseph Meyer（ジョセフ・マイヤー）は、以下のように述べた。「複数の高密度データセンターを活用し、高速で遅延のない先進的な取引システムを設計、無事その構築を完了することができた。JSCCの新業務の対象となるPTSとして、効率的な株式取引のインフラを取引参加者やその顧客に提供できるものと自負している。東証アローヘッドとともに、革新的な取引環境を提供し、市場の発展に寄与していきたい。すでに複数の大手証券会社から、当社開業後、速やかに取引を行う意向を示していただいている。また、幅広い証券会社から打診を受けるとともに、内外の大手機関投資家からも問合せをいただいている。」

CXG は野村ホールディングス（株）を持株会社とする金融サービスグループである野村グループに属し、株式等の電子取引で高い実績を持つインスティネット・インコーポレーテッドの傘下企業である。現在は、CXG の子会社であるチャイエックス・カナダ・ATS・リミテッドがカナダで私設取引市場を運営しているほか、アジア地域ではシンガポール証券取引所と合併で機関投資家の大口取引のための私設取引市場を運営する会社である「チャイイースト」を設立、現地における必要な認可の手続き中である。

以上